

主催者あいさつ (池村幸久代表)



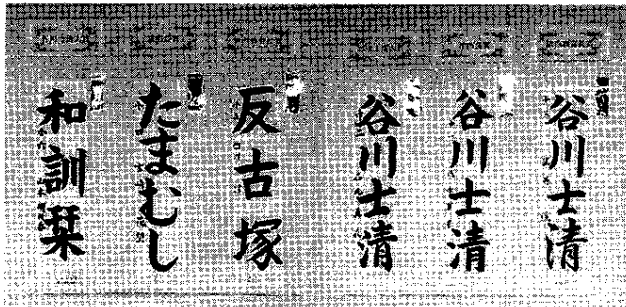
今日は何の日か知っていますか。(間)…実は、谷川士清先生の誕生日です。今日受賞された皆さんはウイナー(勝者)です。心よりお祝い致します。でも、これからの長い人生、様々な困難が襲いかかり、苦しみながら努力を続けなければならない日があるでしょう。そんな時、今日の入賞の喜びを思い起こし、今年、私たち「谷川士清の会」のメンバーが手作りで作成した、谷川士清先生のお顔をモチーフとしたこの参加賞の缶バッジを見てもらって、士清先生が並々ならぬ苦勞の末に偉業を成し遂げられたことを心の支えとして歩いて行ってください。

前業泰幸市長あいさつ (要旨)



皆さんこんにちは、皆さんはことすが書道コンクールに応募され入賞されました。字を書く時に谷川士清先生の事を勉強したりその偉大さを思ったりしていただきたいのです。1709年の今日、谷川士清さんは誕生されたのですよ。『和訓栞』と、郷土津市の誇る偉人のことを心に刻んでください。

さて、ここでちょっと津市の学校の事を話したいと思います。私は昭和37年生れ54歳ですが、津市の学校もかなり古くなっています。これから順次エアコンをつけていきます。その前に扇風機、(これは去年からの事業)を中学校から順に小学校へつけていく予定です。



三賞入賞作品



特選作品

審査員 稲垣無得先生による総評 (池村代表が代読)

以下は入選作品

今年約600点弱の応募がありました。昨年よりはやや少なくなりましたが、作品の内容は力作が多く、審査をするのに随分時間を費やしました。最初は「あらより」から始まり、それを5回ほど繰り返して入賞候補を絞り込みました。さすがに入賞候補作品となると、ほとんど甲乙つけがたく大変苦勞しました。

《審査の基準》

学校の教科書を基準にして書かれていること。特に「はね」「とめ」の区別「点画がきちっと書けていること」

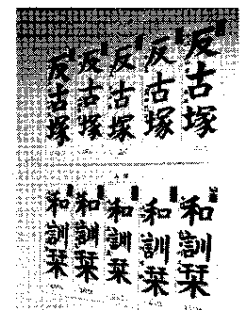
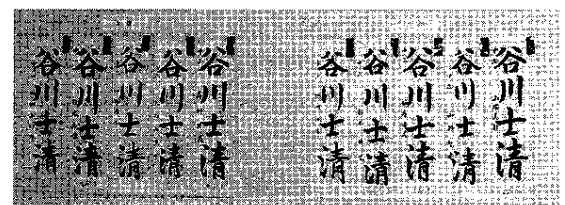
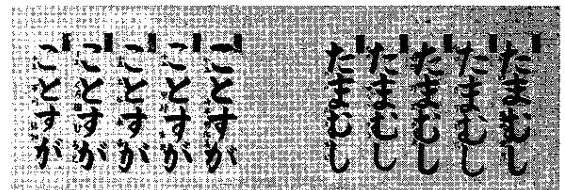
《皆さんの作品を見て感じたこと》

- 1 第一に元気よく伸び伸びと書かれた作品が多かったこと。  
これは作品を書く上で一番大切なこと。墨をたっぷり使い太く堂々とした作品は観る人を圧倒します。
- 2 次に、一筆一筆を最後まで気持ちを込めて書かれていること。  
これは自分の気持ちを一枚の紙に集中させることで、根氣力を養う精神修養です。
- 3 基本的な筆遣いが出来ていること。名前の大きさや位置が課題にうまくマッチして書かれていること。

特に名前は全体に随分うまく上手になっていました。そして、なんといっても練習量の豊富な作品は、見る人の心に強く訴える迫力・魅力があります。「作品の優劣は練習量に比例する」ぜひ、一枚でも多く書くように。

心を伝える手書き文字がだんだん少なくなっている昨今、個性がよりはっきり出る毛筆書きの大切さ・奥の深さも学んでほしいと願っています。心を込めて文字を書くことは素晴らしいことです。文字を愛し文字を大切にすることは、私たちの国の伝統文化を大切にすること、大きく言えば世界の文化を理解することにつながります。「継続は力なり」といわれるように習い事は続けることが一番大切です。

日本の将来を担う皆様、今後も書道を愛し、美しい日本の文字を愛し続けてください。そして来年もまた、元気のある堂々とした作品がたくさん出品されることを希望します。



平成29年2月26日 審査員 稲垣武嗣